

資料読解の手がかり

張学良の目的が読み取れない場合①

下線部に注目させて、中国において東三省がどのように位置付けられているかを問きましょう。

張学良の目的が読み取れない場合②

下線部に注目させて、どのような人物が演説を聞いていたのかを問きましょう。

【資料 17：張学良の演説】

以下は、1932年4月12日に中南海の懐仁堂で当時、北平綏靖公署主任*であった張学良が国際連盟のリットンや日本側参与員の吉田伊三郎ら 82 名を招宴した際に行った演説を中心とする文章である。

「第一に、東三省は歴史的・政治的・経済的に、従来から中国全体の一部であり、東北人民は歴史的に長期にわたる一つの混合民族を代表し、中華民国の自由なる人民にほかならない。経済的にも東北は中国経済全体の不可分の一部であり、政治的にも数百年来の中国の発展における重要な部分であった。今日、中国四億五〇〇〇万人は、東北を中国の一部とみなしており、山東・江蘇・広東といささかの異なりもない。およそ東三省は中国の一部に非ずという謬説や、力で非法な傀儡政府を設立し、中国の他地域から分離させようとするものは、領土的野心を抱いているばかりか、一九二二年のワシントン会議の九カ国条約にいう中国の主権と独立、領土と行政の完全性を尊重する原則に違反するものである」

ここには、中華民国という国民国家の主権が東北をも含めたものとして存在しつづけてきたことが主張され、日本側のいう、東北は中国にあらずとする論点への批判であった。第二の論点は、二〇世紀中国そのものの歴史的な位置への考察を含むものであった。

「第二に、現代中国はまさに重大な改革期にあって、……意識的、無意識的にも中国全国民を現代世界の制度に照応させつつある。…（中略）…しかも、中国の全土は、全欧と日本の総和より大きく、中国の人口は、最近の調査では全欧と同じである。国民革命運動は、同時に政治、工業、社会、文学の領域の革命であり、私は、中国の友人や列強政府が、この変化の偉大さを軽視しないよう希望する。同時に私は、それを生み出した精神は現代の新勢力として、世界の統一と平和を強化するであろうと確信している。日本の政界人士が、公然と中国は国家統一を欠く国であると言ったり、中国は現代国家に非ずと誹謗するのは、いずれも故意に政治的に事実を蔽いかくし、世界の中国認識を惑わせるものである」

*北平綏靖公署とは、国民党が現在の北京あたりに置いた軍事的・政治的拠点である。張学良は当時、北平綏靖公署の主任であった。

（西村成雄（1996）『張学良－日中の覇権と「満州」』岩波書店 pp.97-98）

演説の主張が読み取れない場合

下線部に注目させ、張学良が日本の中国認識をどのように述べているかを問きましょう。

生徒へのサポートの例

- ・ 張学良は、日本の中国認識についてどのように評価していますか？該当する箇所に線を引きましょう。
- ・ 張学良は、東三省（満州）についてどのように述べていますか？
- ・ この演説はどのような人物が聞いていますか？